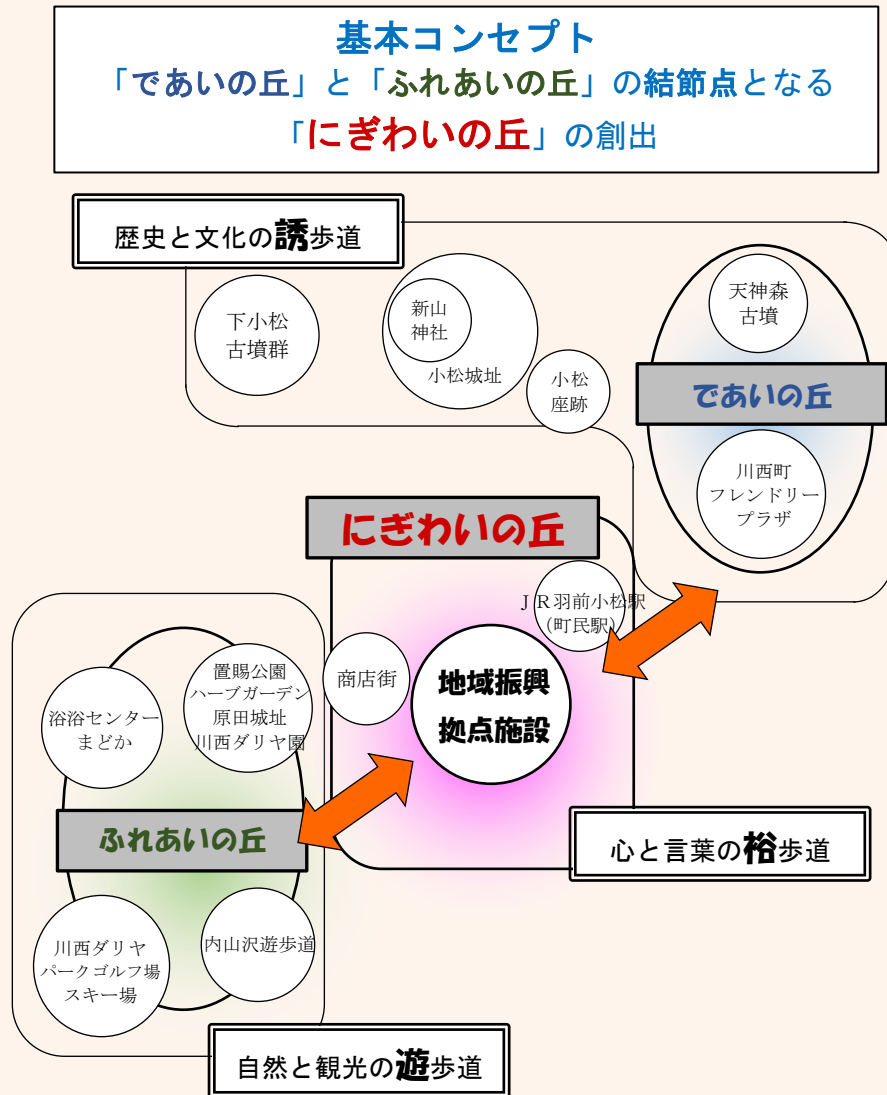


川西町地域振興拠点施設整備基本計画 概要版

1 基本コンセプト

フレンドリーヒルズ構想に位置付けられた「であいの丘」と「ふれあいの丘」の結節点として旧役場庁舎等跡地を新たに「にぎわいの丘」として位置づけ、人、モノ、コトを有機的に結びつける新たな拠点として整備します。



2 にぎわいの創出

(1) 中心市街地のにぎわいづくりの課題

役場庁舎の移転に伴い、人々の往来が減少していることから、旧役場庁舎等跡地の利活用にあたっては中心市街地の人流拡大に資する地域振興の拠点整備が求められています。

(2) 地域振興拠点施設の整備

旧役場庁舎等跡地には、誰もが気軽に利用できる施設として、「にぎわいの丘」の拠点となる地域振興拠点施設を整備します。

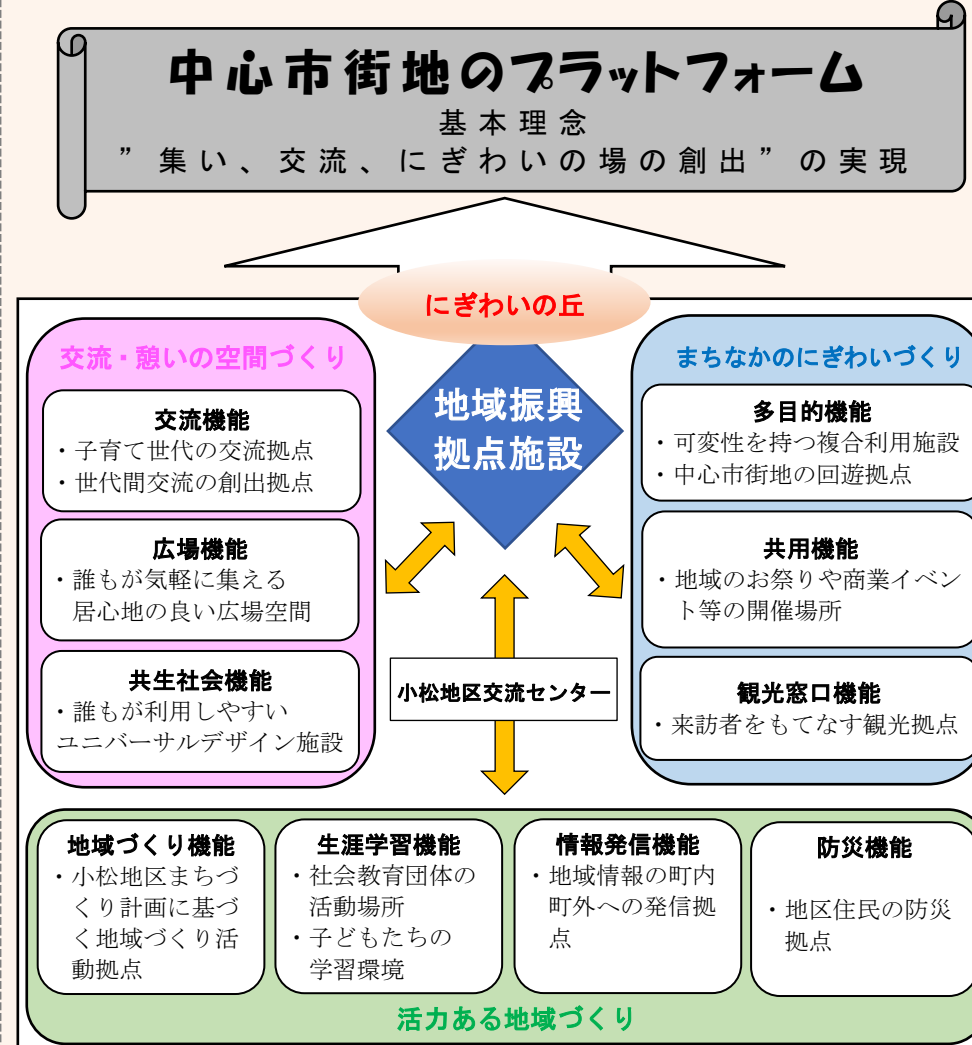
(3) 人流の創出

拠点施設には、中心市街地の回遊の拠点となるまちなか歩きの発着点としての機能が求められるため、駅前通り（一般県道椿川西線）からの進入路を整備し、駅前通りとの一体的な人流の創出を図ります。

(4) 中心市街地の活性化

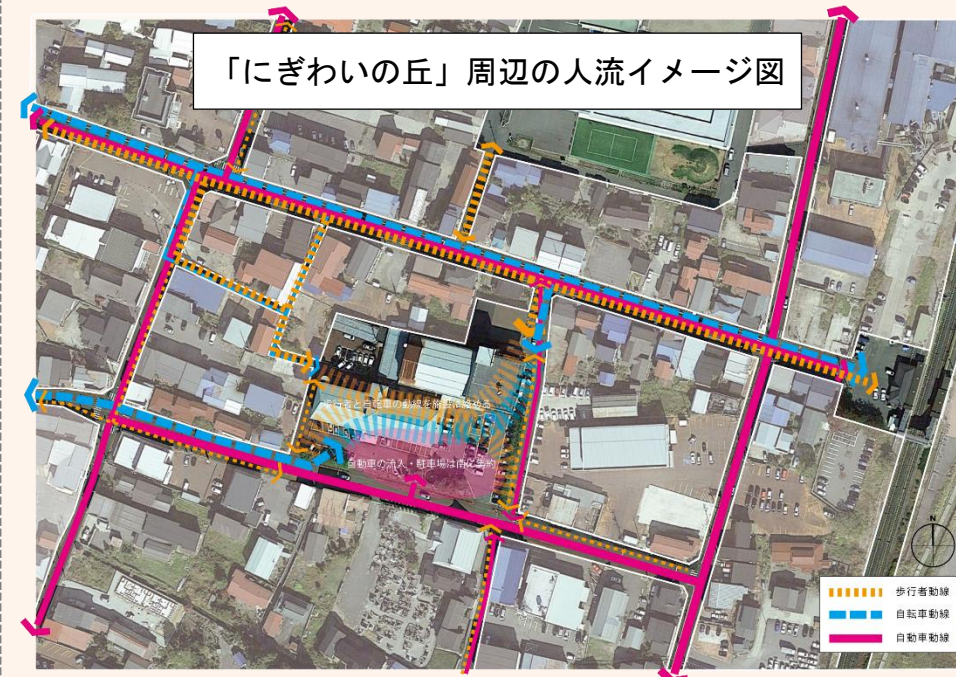
「川西町中心市街地活性化基本計画」及び「川西町都市計画マスタープラン」の見直しを図り、「にぎわいの丘」を核とした中心市街地のランドデザインを構築します。

3 にぎわい創出の実現イメージ



4 「にぎわいの丘」を核とした人流のイメージ図

地域振興拠点施設は駅前通りからの人流に配慮し、回遊拠点としての機能が効率的に連携するよう整備します。



5 基本的機能

(1) 施設・機能の複合化

拠点施設については、小松地区交流センター機能、生涯学習機能及び観光等窓口機能の複合化により、効率性や機能性の向上とにぎわいの創出を図ります。

(2) 情報の発信

町民及び来訪者への情報の提供機能の充実を図ります。

(3) 利用者及び景観への配慮

誰もが親しみを持って利用しやすい拠点施設となるよう設計にあたっては利用者の利便性や景観に配慮します。

(4) 地球環境への配慮

SDGs（持続可能な開発目標）及び「川西町ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、環境負荷低減に努めます。

(5) 防災機能

緊急避難場所として活用できるよう十分な耐震性・安全性を備え、災害発生時に迅速に対応できる機能を持つ拠点施設とします。

(6) 雪対策の徹底

利用者の安全性を確保するため、雪対策を万全にするとともに、雪の活用について検討します。

(7) 効率的で機能性が高い拠点施設

将来の社会情勢の変化を踏まえつつ、効率的な利用サービスが提供できる施設とします。

また、シンプルで機能的なデザインの拠点施設とし、建設コストやライフサイクルコストに十分配慮します。

6 階層及び構造

拠点施設の階層は平屋建てを基本とし、構造はCLT工法による木造を基本とします。

7 規模及び概算事業費

<規模>

区分	面積
施設	約 1,200 m ²
施設周辺スペース	約 1,000 m ²
駐車場	約 2,500 m ²
その他(屋外広場、進入路等)	約 2,000 m ²
合計	約 6,700 m ²

<解体にかかる概算事業費>

区分	概算事業費
解体工事	526 百万円
アスベスト調査費	9 百万円
設計費等	29 百万円
その他	10 百万円
合計	574 百万円

<施設整備に係る概算事業費>

区分	概算事業費
本体工事	596 百万円
外構工事	97 百万円
造成工事	34 百万円
用地取得費	13 百万円
道路改良工事	18 百万円
設計費等	121 百万円
移転費用	2 百万円
初度調弁	10 百万円
その他	26 百万円
合計	917 百万円

※ 財源については、国・県の交付金など、有利な財源の確保に努めます。

8 整備のスケジュール

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
解体設計	解体設計				
基本・実施設計	基本設計	実施設計		外構設計	
解体工事		解体工事			
建設工事			造成工事	建設工事	
外構工事					外構工事

この「川西町地域振興拠点施設整備基本計画」は整備の基本的な考え方を示すもので、今後の設計段階において、町民ワークショップにより意見を聴取し、より詳細な検討を行います。